

★FJIK P32;S05 2001-173191/18 ★JP 2001000503-A

Massage device for massaging optical spots, has vibration source to generate vibration and transmits it to protrusions set at back of right and left face covers around massage pressure points

FUJI KEIKI CO LTD 1999.06.22 1999JP-175150

P33 P34 X27 (2001.01.09) A61H 39/04, A61F 9/04, A61H 23/02, A61N 2/08, 5/06

Novelty: The massage device (10) has right and left pair of face covers (12) which cover the surroundings of optical portions on wearing. Some protrusions (14) are formed at the back of the face covers corresponding to the massage pressure points of optical portion. A source of vibration is provided to generate vibrations and transmit to the protrusions to perform a massage.

Use: For stimulating optical nerves of person by performing a massage at predetermined massage pressure points.

Advantage: The massage pressure points around the optical portions can be massaged effectively and easily by transmitting the vibration generated by a source of vibration to some protrusions formed at the back of right and left face covers corresponding to the massage pressure points. A mental refreshing can be provided by the massage, thereby promoting muscles extension of capillary, increase in oxygen amount and equilibrium of autonomic nerves. A promotion of metabolism and an improvement of blood circulation can be promoted at the optical portions and the peripheral areas. A regulation function of optical nerves can be enjoyed fully.

Description of Drawing(s): The figure shows the back elevation of massage device.

Massage device 10

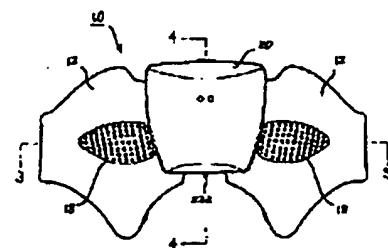
Face covers 12

Protrusion 14

(6pp Dwg.No.2/6)

N2001-125162

S05-A05; X27-A02A2



(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-503

(P2001-503A)

(43)公開日 平成13年1月9日(2001.1.9)

(51)Int.Cl'
A 61 H 39/04
A 61 F 9/04 3 0 0
A 61 H 23/02 3 7 0
A 61 N 2/08
5/06

F I
A 61 H 39/04 M 4 C 0 7 4
A 61 F 9/04 3 0 0 4 C 0 8 2
A 61 H 23/02 3 7 0 4 C 1 0 1
A 61 N 5/06 A 4 C 1 0 6
1/42 C

審査請求 有 請求項の数 8 OL (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-175150

(22)出願日 平成11年6月22日(1999.6.22)

(71)出願人 000154233

株式会社富士計器

北海道釧路市星が浦大通4丁目5番51号

(72)発明者 伊藤 正志

北海道釧路市星が浦大通4丁目5番51号

株式会社富士計器内

(74)代理人 100104330

弁理士 杉山 賢二

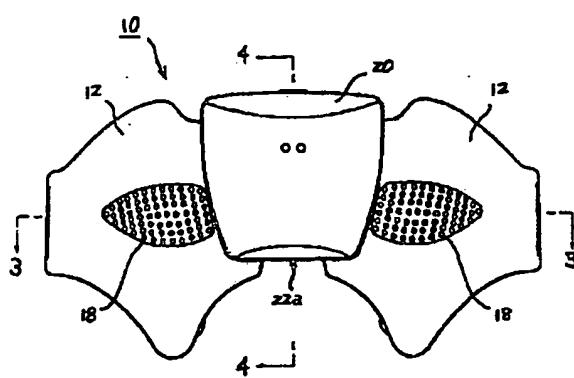
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 マッサージ器

(57)【要約】

【課題】 眼部周囲のツボを所望のときに手軽にかつ効果的にマッサージすることができるマッサージ器を提供することである。

【解決手段】 装着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部12と、振動を発生させる振動源22とを備え、左右の顔面覆い部の背面には各々、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された突起14が設けられており、振動源より発生する振動が各突起に伝達され、これにより眼部の周囲のツボをマッサージすることを特徴とする。なお、各突起の先端又は内部に、永久磁石16又は遠赤外線放射体を取付けてもよい。



(2) 特開2001-503 (P 2001-503ch)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 裝着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部と、振動を発生される振動源とを備え、左右の顔面覆い部の背面には各々、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された1又は複数個の突起が設けられており、振動源より発生する振動が各突起に伝達され、これにより眼部の周囲のツボをマッサージすることを特徴とするマッサージ器。

【請求項2】 左右の顔面覆い部を互いに連結するための連結部を備え、振動源が連結部に配置されていることを特徴とする請求項1に記載のマッサージ器。

【請求項3】 前記振動源が、モータであることを特徴とする請求項1又は2に記載のマッサージ器。

【請求項4】 突起が、左右の顔面覆い部にそれぞれ1個ずつ設けられていることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項5】 突起が、弾性材料で形成されていることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項6】 前記弾性材料が、シリコンであることを特徴とする請求項5に記載のマッサージ器。

【請求項7】 各突起の先端又は内部に、永久磁石が取付けられていることを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項8】 各突起の先端又は内部に、遠赤外線放射体が取付けられ或いは遠赤外線放射塗料が塗布されていることを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項9】 左右の顔面覆い部の略中央に、装着時に外部を見る能够ないように、多数の小孔又は開口部がそれぞれ形成されていることを特徴とする請求項1～8のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は一般に、マッサージ器に関する。より詳細には、本発明は、眼部周囲のツボを振動及び／又は磁気並びに遠赤外線により刺激するマッサージ器に関する。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】漢方医学によると、人体の各所にツボがあり、これらのツボを刺激することにより、人体の各組織器官に影響を及ぼし、病気の予防や治療を行うことができる。このうち左右眼部の周囲には各々、図6に示されるように、11のツボがあることが知られている。すなわち、Aは「せんちく」(せん竹)、Bは「ぎょう」(魚腰)、Cは「しちくくう」(し竹空)、Dは「たいよう」(太よう)、Eは「どうしりょう」(瞳子りょう)、Fは「きゅうご」(球后)、Gは「しょうきゅう」(承泣)、Hは「せいめい」(晴明)、Iは「しはく」(四白)、Jは「げい

し」(迎香)、Kは「ひつう」(鼻通)と呼ばれるツボである。

【0003】従来、特定のツボをマッサージしようとする場合には、マッサージ師に依頼せざるを得ないため、所望のときに手軽に効果的にマッサージを行うことができる器具に対する要請があった。

【0004】本発明は、上述のような要請に鑑みて、眼部周囲のツボを所望のときに手軽にかつ効果的にマッサージすることができるマッサージ器を提供することを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載のマッサージ器は、装着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部と、振動を発生される振動源とを備え、左右の顔面覆い部の背面には各々、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された1又は複数個の突起が設けられており、振動源より発生する振動が各突起に伝達され、これにより眼部の周囲のツボをマッサージすることを特徴とするものである。

【0006】本願請求項2に記載のマッサージ器は、前記請求項1のマッサージ器において、左右の顔面覆い部を互いに連結するための連結部を備え、振動源が連結部に配置されていることを特徴とするものである。

【0007】本願請求項3に記載のマッサージ器は、前記請求項1又は2のマッサージ器において、前記振動源が、モータであることを特徴とするものである。

【0008】本願請求項4に記載のマッサージ器は、前記請求項1～3のいずれか1項のマッサージ器において、突起が、左右の顔面覆い部にそれぞれ11個ずつ設けられていることを特徴とするものである。

【0009】本願請求項5に記載のマッサージ器は、前記請求項1～4のいずれか1項のマッサージ器において、突起が、弾性材料で形成されていることを特徴とするものである。

【0010】本願請求項6に記載のマッサージ器は、前記請求項5のマッサージ器において、前記弾性材料が、シリコンであることを特徴とするものである。

【0011】本願請求項7に記載のマッサージ器は、前記請求項1～6のいずれか1項のマッサージ器において、各突起の先端又は内部に、永久磁石が取付けられていることを特徴とするものである。

【0012】本願請求項8に記載のマッサージ器は、前記請求項1～7のいずれか1項のマッサージ器において、各突起の先端又は内部に、遠赤外線放射体が取付けられ或いは遠赤外線放射塗料が塗布されていることを特徴とするものである。

【0013】本願請求項9に記載のマッサージ器は、前記請求項1～8のいずれか1項のマッサージ器において、左右の顔面覆い部の略中央に、装着時に外部を見る能够ないように、多数の小孔又は開口部がそれぞれ

形成されていることを特徴とするものである。

【0014】

【発明の実施の形態】次に図面を参照して、本発明の好ましい実施の形態に係るマッサージ器について説明する。図1において全体として参照番号10で示されるマッサージ器は、全体としてゴーグル若しくはメガネに似た形状を有しており、装着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部12と、左右の顔面覆い部12の間に配置され、これらを互いに連結する連結部20とを備えている。

【0015】左右の顔面覆い部12の背面には各々、図2に示されるように、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された突起14が設けられている。なお、「背面」とは、マッサージ器10を顔面に装着したときに顔面に面した側をいう。

【0016】各突起14は好ましくは、詳細には後述するように振動時に振動が伝達し易いように、図3に示されるように、内部が空洞になっている。また、各突起14は好ましくは、顔面に違和感を与えないように、弾性材料で形成されており、より好ましくは、皮膚に副作用を及ぼさないように、シリコンで形成されている。

【0017】突起14は、左右の顔面覆い部12にそれぞれ11個ずつ設けられており、マッサージ器10を装着したときに図6に示されるツボにそれぞれ当たるように、位置決めされている。

【0018】突起14には各々、先端に、永久磁石16が取付けられている。永久磁石16としては、フェライト磁石を使用することも可能ではあるが、より大きな磁力効果を発揮させるため、ネオジウム磁石のような希土類金属製磁石を使用するのが好ましい。

【0019】好ましくは、左右の顔面覆い部12の略中央には、図1および図2に示されるように、マッサージ器10を装着したときに外部を見ることができるよう、多數の小孔18が形成されている。小孔の径は好ましくは、1～3mm程度である。なお、装着時に小孔から外部を見ることにより、いわゆる「ピンホール効果」を期待することができる。「ピンホール効果」とは、ピンホールを通して入った光が、ピンホールを通さない光よりも、眼の奥に深く入っていき、網膜まで光が当たり、これにより網膜が刺激され、解像力が増大し、網膜が活性化され、視力の回復に寄与する効果をいう。

【0020】連結部20は、略箱型の形状を有しており、左右の顔面覆い部12を連結する役目を果たすとともに、以下に示すような機能を有している。すなわち、連結部20は、モータ22を収容するスペース24、およびモータ22の駆動させるための乾電池又は充電池(図示せず)を収容する電池ボックス26となる。なお、モータ22は通常の型式のものであり、連結部20の下部にモータ22を駆動させるためのスイッチ22aが露出している。

【0021】以上のように構成された本発明の好ましい実施の形態に係るマッサージ器10の作動について説明する。まず、図5に示されるように、左右の顔面覆い部12が左右の眼部に位置するように、マッサージ器10を装着バンド28によって顔面に装着する。すると、各突起14は、左右の眼部の周囲にツボに当たる。この状態でモータ22のスイッチ22aをONにすると、モータ22が駆動して振動が発生する。そして、この振動が各突起14に伝達され、これにより眼部の周囲のツボがマッサージされる。これとともに、各突起14の先端の永久磁石16から発生する磁気により、眼部の周囲のツボが刺激される。

【0022】本発明は、以上の発明の実施の形態に限定されることなく、特許請求の範囲に記載された発明の範囲内で、種々の変更が可能であり、それらも本発明の範囲に包含されるものであることはいうまでもない。

【0023】たとえば、前記実施の形態においては、モータ22を駆動させることにより発生する振動を利用してツボをマッサージするように構成されているが、モータ以外の他の機械的又は電気的振動源(例えば、励磁コイルへの通電状態に応じて往復動するようになったランジャ等)を使用してもよい。

【0024】また、前記実施の形態では、各突起の先端に永久磁石16が取付けられているが、永久磁石を省略してもよい。この場合には、眼部の周囲のツボは、機械的な振動によってのみマッサージされることとなる。

【0025】また、前記実施の形態では、永久磁石16は、突起14の先端に取付けられているが、永久磁石16を突起14の内部に取付けてもよい。

【0026】また、永久磁石16の代わりに、或いは永久磁石16に加えて、突起14の先端又は内部に、遠赤外線放射体(図示せず)を取付けたり或いは遠赤外線放射塗料(図示せず)を塗布したりしてもよい。遠赤外線放射体又は遠赤外線塗料から放射される遠赤外線により、ツボが刺激される。

【0027】また、前記実施の形態では、左右の顔面覆い部12の略中央に、多數の小孔18が形成されているが、小孔18の代わりに、外部を見ることができる開口部すなわち窓(図示せず)を設けてもよい。ここで、開口部とは、顔面覆い部を切り欠いたものの他、メガネのレンズ部分のように、切り欠いた部分に透明板を取付けた場合も含む。或いは、小孔18や開口部を全く設けなくともよい。

【0028】また、前記実施の形態では、突起14の数が各顔面覆い部12に対して、それぞれ11個であるが、突起の数を1～22個のうち任意の数にしてもよい。

【0029】また、前記実施の形態では、左右の顔面覆い部12を連結するため連結部20が設けられているが、連結部20を省略して、左右の顔面覆い部12同士

(4) 特開2001-503 (P 2001-503)

を直接連結してもよい。

【0030】さらに、連結部20から電池ボックス24及び／又はスイッチ22aを分離し、電池ボックス及び／又はスイッチをズボンのベルトに装着したり、衣服のポケットに収納したりしてもよい。また、同様に、振動源を連結部20から分離してもよい。このようにすることによって、装着時に鼻などに加えられる重量が軽減される。また、電源を電気コンセントからとってもよい。

【0031】

【発明の効果】本発明によれば、眼部周囲のツボを所望のときに手軽にかつ効果的にマッサージすることができる。これにより、毛細血管の拡張、酸素量の増加、自律神経の平衡化、新陳代謝の促進、血液循環の改善、眼部およびその周辺の筋肉と視神経の調節機能の向上などの各種の効用が得られるとともに、マッサージによる心的な爽快感を満喫することもできる。また、顔面覆い部に小孔を設けた場合には、ピンホール効果による視力回復効果を期待することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の好ましい実施の形態に係るマッサージ器を示した正面図である。

【図2】図1のマッサージ器の背面図である。

【図3】図1の線3-3に沿った断面図である。

【図4】図1の線4-4に沿った断面図である。

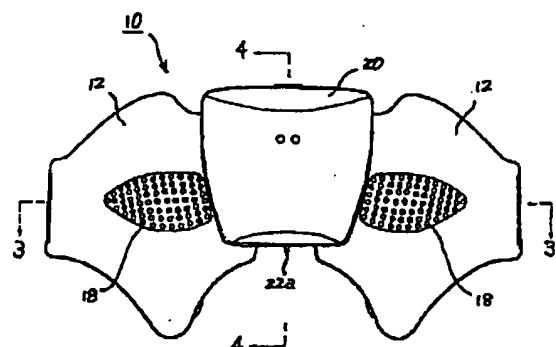
【図5】図1のマッサージ器を装着している状態を示した図である。

【図6】眼部の周囲に位置するツボを示した図である。

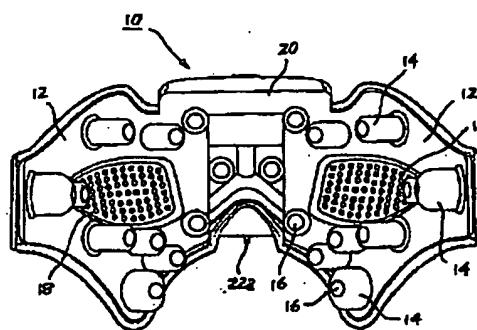
【符号の説明】

- 10 マッサージ器
- 12 顔面覆い部
- 14 突起
- 16 永久磁石
- 18 小孔
- 20 連結部
- 22 モータ
- 24 電池ボックス

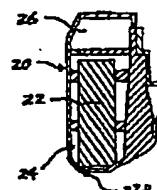
【図1】



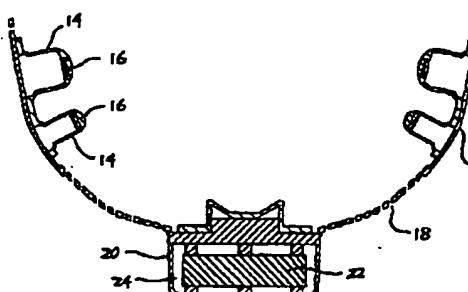
【図2】



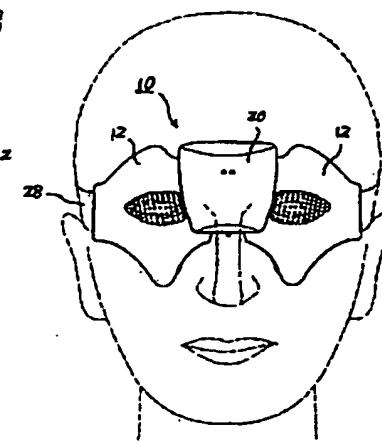
【図4】



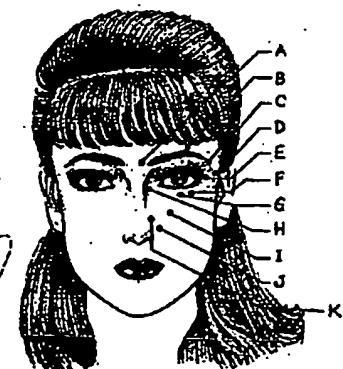
【図3】



【図5】



【図6】



【手続補正書】

【提出日】平成12年3月24日(2000.3.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 裝着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部と、振動を発生される振動源とを備え、左右の顔面覆い部の背面には各々、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された1又は複数個の突起が設けられており、左右の顔面覆い部の略中央に、装着時に外部を見ることができるように、多数の小孔又は開口部がそれぞれ形成されており、振動源より発生する振動が各突起に伝達され、これにより眼部の周囲のツボをマッサージすることを特徴とするマッサージ器。

【請求項2】 左右の顔面覆い部を互いに連結するための連結部を備え、振動源が連結部に配置されていることを特徴とする請求項1に記載のマッサージ器。

【請求項3】 前記振動源が、モータであることを特徴とする請求項1又は2に記載のマッサージ器。

【請求項4】 突起が、左右の顔面覆い部にそれぞれ1個ずつ設けられていることを特徴とする請求項1～3のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項5】 突起が、弾性材料で形成されていることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項6】 前記弾性材料が、シリコンであることを特徴とする請求項5に記載のマッサージ器。

【請求項7】 各突起の先端又は内部に、永久磁石が取付けられていることを特徴とする請求項1～6のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【請求項8】 各突起の先端又は内部に、遠赤外線放射体が取付けられ或いは遠赤外線放射塗料が塗布されていることを特徴とする請求項1～7のいずれか1項に記載のマッサージ器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正内容】

【0005】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載のマッサージ器は、装着時に眼部の周囲を覆う左右の顔面覆い部と、振動を発生される振動源とを備え、左右の顔面覆い部の背面には各々、装着時に眼部の周囲のツボに当たるように配置された1又は複数個の突起が設けられており、左右の顔面覆い部の略中央に、装着時に外部を見

ることができるように、多数の小孔又は開口部がそれぞれ形成されており、振動源より発生する振動が各突起に伝達され、これにより眼部の周囲のツボをマッサージすることを特徴とするものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正内容】

【0006】本願請求項2に記載のマッサージ器は、前記請求項1のマッサージ器において、左右の顔面覆い部を互いに連結するための連結部を備え、振動源が連結部に配置されていることを特徴とするものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】本願請求項3に記載のマッサージ器は、前記請求項1又は2のマッサージ器において、前記振動源が、モータであることを特徴とするものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】本願請求項4に記載のマッサージ器は、前記請求項1～3のいずれか1項のマッサージ器において、突起が、左右の顔面覆い部にそれぞれ11個ずつ設けられていることを特徴とするものである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】本願請求項5に記載のマッサージ器は、前記請求項1～4のいずれか1項のマッサージ器において、突起が、弾性材料で形成されていることを特徴とするものである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正内容】

【0010】本願請求項6に記載のマッサージ器は、前記請求項5のマッサージ器において、前記弾性材料が、シリコンであることを特徴とするものである。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

(6) 特開2001-503 (P2001-5030)

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正内容】

【0011】本願請求項7に記載のマッサージ器は、前記請求項1～6のいずれか1項のマッサージ器において、各突起の先端又は内部に、永久磁石が取付けられていることを特徴とするものである。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正内容】

【0012】本願請求項8に記載のマッサージ器は、前記請求項1～7のいずれか1項のマッサージ器において、各突起の先端又は内部に、遠赤外線放射体が取付けられ或いは遠赤外線放射塗料が塗布されていることを特徴とするものである。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正内容】

【0027】また、前記実施の形態では、左右の顔面覆い部12の略中央に、多数の小孔18が形成されているが、小孔18の代わりに、外部を見ることができる開口部すなわち窓(図示せず)を設けてもよい。ここで、開口部とは、顔面覆い部を切り欠いたものの他、メガネのレンズ部分のように、切り欠いた部分に透明板を取付けた場合も含む。

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正内容】

【0031】

【発明の効果】本発明によれば、眼部周囲のツボを所望のときに手軽かつ効果的にマッサージすることができる。これにより、毛細血管の拡張、酸素量の増加、自律神経の平衡化、新陳代謝の促進、血液循環の改善、眼部およびその周辺の筋肉と視神経の調節機能の向上などの各種の効用が得られるとともに、マッサージによる心理的な爽快感を満喫することもできる。また、ピンホール効果による視力回復効果を期待することができる。

フロントページの続き

F ターム(参考) 4C074 AA06 CC01 DD01 FF05 FF09
 GG11 HH02 HH03
 4C082 PA01 PC07 PC09 PJ11 PJ26
 PL01
 4C101 BA01 BB13 BC01 BC07 BD17
 BD26 BE07
 4C106 AA01 BB01 CC16 EE05 EE08